

令和6年度第1回広島県公立大学法人評価委員会

- 1 開催日時：令和6年7月12日（金）09：30～11：30
- 2 開催場所：サテライトキャンパスひろしま504中講義室
- 3 出席者：【評価委員会】曾余田委員長、浅田委員、中矢委員
【広島県公立大学法人】鈴木理事長、森永学長、有信学長、津森副学長、馬本副学長、
保井学部長、山本事務局長 太田業務評価室長 外
- 4 議題：令和5事業年度業務実績及び評価について 外
- 5 担当部署：広島県環境県民局高等教育担当
TEL (082) 513-2752（ダイヤルイン）

【質疑】（評価委員：○、広島県公立大学法人：●）

- 国際交流センターの機能として、派遣や受入の増加を図るだけではなく、留学生の満足度を高める取組が必要ではないか。また、国際交流から中長期の留学にどのようにつなげていくのか。
- 短期派遣留学生に対し、令和5年度からルーブリック評価により学生の成長度を測定しており、本人へのフィードバックに加え、HPで学生の成長度合いをPRしている。短期留学の効果を明示することを通じて、長期留学につなげていきたい。
また、受入留学生については、帰国前にアンケート調査を行い、施設面や授業の雰囲気などについての満足度を確認しており、留学生からは高い評価を得ている。
- 大学独自のルーブリック評価と外部評価テストを組み合わせ、何を測ろうとしているのか。
- 学生の自己評価による「課題探究型地域創生人材ルーブリック」に加え、外部評価であるPROGを実施することにより、主観的・客観的な視点から評価できるようにしている。
- 外部評価テストにおいて、あらかじめ設定する基準とはどのようなものか。
- PROGの全国平均や、ここまでの能力を身に付けてほしいという観点から、PROGのリテラシー6点、あるいはコンピテンシー4点のどちらかをクリアすることを基準としている。
- 県立広島大学と叡啓大学の間で、日本人学生と留学生の相互交流は活発に行われているのか。
- 叡啓大学の国際学生寮において、県立広島大学の留学生や日本人学生も受け入れており、学生主体により日常的な交流が行われている。
- 競争的資金の獲得額が初めて2億円を下回ったことについて、どのように考えているか。
- 科研費以外の外部資金については、教員個々の努力によるところが大きく、大学としても申請の活発化に取り組んでいるが、申請教員が固定化していることが課題となっている。
- 外部資金の獲得に係る数値目標を達成できていないのに、なぜ自己評価を3としているのか。目標期間の最終年度となるR6年度において目標値を達成できそうなのか。
- 目標を達成できなかったのは、数千万円規模の大型の研究が終了したことによるもの。大型の外部資金の獲得に向け、組織的なバックアップ体制を整備することが必要と考えている。